



ポディノナさん（左）、クマリさん（中央）、プラディーバさん（右）

ACC21

スリランカ女性 支援だより

2017年3月

リーガル・アシスタントの育成が始まりました

（特活）アジア・コミュニティ・センター21（ACC21）は、2016年12月1日～31日の1ヶ月限定で、クラウド・ファンディングサイト「JAPAN GIVING」において、『**行政の手続きや法律の知識がなく、泣き寝入りするスリランカの女性たちを救いたい！**』のチャレンジを実施しました。この1ヶ月間のチャレンジを通じ、22人の方々から計189,000円のご寄附をいただきました。このほか、ACC21の銀行口座等を通じていただいた指定寄附計239,000円（27の個人・団体）と合わせると、いただいたご寄附は合計で428,000円となりました。温かいお気持ちを、ご寄附として私どもに託してくださいました皆さまに、厚く御礼申し上げます。

1月中旬にインターンシップを開始

ACC21は、ウバ州の女性組織「UWWO」（ウバ・ウエラッサ女性団体）と事業に関する覚書を締結し、1月中旬からさっそくプロジェクトがスタートしました。UWWOのメンバーである女性2名（50代、10代後半）と、UWWOのような各地の女性組織と人権保護NGOとの間でリエゾニックな調整役となる女性1名の計3名を選定し、首都コロンボに本部を置く人権保護NGO「Janasansadaya」（ジャナサンサダヤ）に1月

中旬から約3ヶ月間、インターンとして派遣しています。ジャナサンサダヤは不当逮捕や拷問などの被害を受け、不公正な立場にある市民のケースを多数扱っており、人権委員会や国際ネットワークとの連携を構築しており、草の根での活動から提言まで行う、バランスのとれた実績ある団体です。

彼女たちは、人権に関する各種法令、条例についての学習、相談業務とそのプロセス、裁判の傍聴、専門家によるレクチャーなど、様々なことを学び、インターン修了後に、地元で地域住民から法律相談とサポート業務を行うことになっているため、とても真剣に取り組んでいます。

2月に現地で話を聴きました。

“女性の権利について大きく目を開かれた”

ポディノナさん：『不公正や暴力などのケースはある程度知っていましたが、解決まで関与したことがありませんでした。このインターンで、自分の感性が研ぎ澄まされているのを感じています。相談に来た人たちの話から必要な情報や重要な事項を引き出し、ハイライトする方法などについて学んでいます。ここで相談を受けているケースの多くは一般市民が警察や政府から受けた暴力や拷問です。

地元のウエラワヤでは草むらをたたけば60人ぐらいは弁護士が出てきますが（笑）、相談料は非常に高額で私たち市民に支払える額ではなく、必ずしも期待する仕事をしてくれるわけではありません。今回、私は女性の権利について大きく目を開かれました。自分自身の経験と、ここで取り扱っているケースを比較しても、夫のケースと妻のケースでは、妻の方がより被害の度合いが大きいということが分かってきました。』



ケースをひとつひとつ読み込み、スタッフと丁寧にディスカッションを重ねているというポディノナさん（左）とクマリさん（右）。「以前は聞いたことをそのままタイピングするだけでしたが、聞いたことについて関係者で意見交換をしてから、文書を作成できるようになりました」

法律相談窓口を開設

開設後 10 日間で 6 件

2017 年 2 月 5 日、UWWO はウバ州のウエラワヤ本部事務所内に相談窓口を開設しました。

フルタイムのボランティア（男性）と、現在インターン中の 2 名が、被害者、陳情者と面談するなどして情報を収集・分析し、文書にまとめ、必要な手続きのサポートを行います。

UWWO 代表のソーマさん（右写真の左）は、窓口を開設してわずか 10 日間に 6 件の相談が持ち込まれたことに驚いています。

『ひとつのケースを相談者から聴きとるのに 6 時間かかったこともあり、1 日中聴くだけでも大変な仕事です。相談者は、これまでの問題やフラストレーションを吐き出すようにして、思いをぶつけてくるので真剣に向き合っていますが、時間をかけて聴いても要点をまとめると 2 ページにしかならない、ということもあります。これまでに受けた相談は、暴力や土地に関する問題です。



私たち女性が立ち上がらないと

相談に来た女性は、「私のように夫を亡くした女性たちは、近所の男性たちに狙われるなど常に危険と隣り合わせです。道路工事の日雇にきちんとした格好で出かけるのと、“体を売りに行く”などとあらぬ噂をたてられたりします。女性はいつも弱い立場。私たち女性が立ち上がらないといけません。」と話してくれました。

いまコロンボで研修中の 2 名は終了後に窓口業務についてももらいますが、この業務のシステム化を進めるとともに、人件費を含めた経費が相応にカバーされ、持続的に運営できるようにしたいと思います。』

女性たちが抱える課題に、ひとつずつ取り組みます



持続可能な開発目標への貢献

これらの活動を通じて、2030 年に向けて国際社会全体で取り組んでいる「持続可能な開発目標 (SDGs)」のうち、「貧困をなくそう」「ジェンダー平等を実現しよう」という 2 つの目標への貢献をめざします。

私たち ACC21 は、スリランカ・ウバ州モナラガラ県ウエラワヤ DS 地区で 30 年以上の活動実績をもつ女性の住民組織「UWWO」（ウバ・ウエラツサ女性団体）を中心とした 18 の女性組織（メンバー総数約 780 人）と連携し、スリランカの女性たちが安定した収入手段を確立し、暴力や不公正のない、より良い環境で生活できるように支援します。

1. リーガル・アシスタントの育成

地域から 2 人の女性を選び、人権問題について経験のある NGO で、法律や制度についての 3 ヶ月のトレーニングを提供します。トレーニング後は地元に戻って、地域の人びとが抱えるさまざまな問題（家庭内暴力、離婚、土地問題、不当な拘束など）の解決を支援します。さらに、

人権保護に取り組む NGO と地域の女性組織を結ぶ担当スタッフ 1 人を育成します。

2. 女性たちの収入向上

女性農家が共同で農産物を販売するための『共同販売センター』がありますが、代金の受け取りが数日後になってしまい、教育費や医療費などの急な出費に対応できません。このため、仲介業者から安く買いたたかれてしまっています。そこで、女性農家が生産物の 75% をセンターで販売できるシステムを整えるとともに、農産物の加工や包装の技術を身につけ、より高く販売できるように支援します。さらに、既存のスーパーマーケットチェーンなどと交渉し、新しい市場の開拓にも取り組みます。

[編集：発行] (特活) アジア・コミュニティ・センター-21